



井村裕夫

先端医療振興財団理事長 京都大学名誉教授

1954年京都大学医学部卒業。内科学、特に内分泌代謝病学を専攻。米国カリフォルニア大学研究員を経て、1971年神戸大学医学部教授。1977年京都大学医学部教授。1989年同医学部長。1991年京都大学総長。1998年神戸市立中央市民病院長、科学技術会議議員、2001年総合科学技術会議議員。2004年より現職。

長年医学医療の現場で診療と研究に従事してきたが、京都大学総長就任以降、高等教育の改革と科学技術の振興に力を注ぎ、第二次科学技術基本計画の策定を主導した。退任後は生命科学の研究成果を臨床に生かすためのトランスレーショナルリサーチを振興するため、神戸では医療産業都市の建設を推進し、中央では臨床研究を発展させるための政策作りに取り組んでいる。

## 高齢社会における生と死

高齢社会をどう生きるかは、現代人にとって一つのチャレンジである。最近欧米でウェルエージングということが言われているが、それは高齢社会をどう生きるかを示したものでいえよう。大切なことは、人生の長さではなく、生活の質あるいは生命の質（QOL）である。そのためには、出来るだけ健康を守ること、仕事、趣味、ボランティア活動を通して社会との接点を持ち続けることが必要である。高齢者はまた死と身近に生きることになり、死への心構えが求められる。よく生きること、それは安楽な死につながるというよいであろう。